

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度12月号

○ 概要

- (1) 令和6年度12月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,766億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,387円（伸び率▲0.5%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が2,165億円（伸び率+7.1%）、薬剤料が5,587億円（伸び率+3.3%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,121億円（伸び率+5.9%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,207円（伸び率▲2.7%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.85種類（伸び率+1.7%）、26.5日（伸び率▲2.6%）、69円（伸び率▲1.8%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料4,308億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+85億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の807億円（伸び幅+11億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+44億円（総額316億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,308 億円 (+85 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(807 億円)	21 循環器官用薬 (588 億円)	11 中枢神経系用薬 (564 億円)
0 歳以上 5 歳未満	25.3 億円 (+0.8 億円)	44 アレルギー用薬 (6.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.0 億円)	61 抗生物質製剤 (4.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	130.8 億円 (+9.2 億円)	44 アレルギー用薬 (36.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (29.1 億円)	62 化学療法剤 (19.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,662 億円 (+52 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(305 億円)	11 中枢神経系用薬 (293 億円)	42 腫瘍用薬 (183 億円)
65 歳以上 75 歳未満	850 億円 (▲40 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(195 億円)	42 腫瘍用薬 (148 億円)	21 循環器官用薬 (134 億円)
75 歳以上	1,639 億円 (+63 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(298 億円)	21 循環器官用薬 (271 億円)	42 腫瘍用薬 (220 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,387円（伸び率▲0.5%）で、最も高かったのは福井県（11,282円（伸び率+4.7%））、最も低かったのは佐賀県（8,208円（伸び率+1.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+4.7%）、最も低かったのは大分県（伸び率▲2.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	90.8 %	+5.6 %
薬剤料ベース	20.1 %	+0.5 %
後発品調剤率	84.1 %	+2.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	62.4 %	+2.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.9 %	+34.6 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲4.3 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.1 %	29.2 % (100 歳以上)	13.4 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	90.8 %	93.2 % (100 歳以上)	89.5 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	946 億円 (+46 億円)	21 循環器官用薬 (277 億円)	11 中枢神経系用薬 (165 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)
0 歳以上 5 歳未満	10.8 億円 (+2.1 億円)	44 アレルギー用薬 (5.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	62 化学療法剤 (1.8 億円)
5 歳以上 15 歳未満	28.9 億円 (+7.1 億円)	44 アレルギー用薬 (13.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.3 億円)	62 化学療法剤 (3.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	342 億円 (+19 億円)	21 循環器官用薬 (78 億円)	11 中枢神経系用薬 (77 億円)	44 アレルギー用薬 (40 億円)
65 歳以上 75 歳未満	183 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (24 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)
75 歳以上	382 億円 (+23 億円)	21 循環器官用薬 (131 億円)	11 中枢神経系用薬 (61 億円)	23 消化器官用薬 (55 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,355 円	1,767 円(秋田県)	1,153 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.0%	+7.6 %(徳島県)	▲1.7 %(山梨県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	90.8 %	94.5 %(沖縄県)	88.2 %(徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.1 %	22.2 %(鹿児島県)	18.0 %(京都府)
後発医薬品調剤率	84.1 %	87.1 %(熊本県)	81.2 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	62.4 %	67.1 %(沖縄県)	59.4 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度12月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。